

# ぶらり散歩

時間に余裕ができたとき、ふと気分転換をしたくなかったとき、散歩に出かけてみるのはいかがでしょう。時間や場所にこだわらず、心の赴くままに歩き、ゆったりと周りの景色を楽しむ…。それが散歩の醍醐味ではないでしょうか。

というわけで、今日は西河原公園に心が向かいました。その後、安威川の河川敷にもちょっと行ってみました。



北の公園の端からゆっくりと南に向かって歩いてみましょう。

おっと、早速、見事な小鳥を見つけました。何と、カワセミです。スズメほどの大きさで、背中が青緑色でお腹が橙色。頭に斑点があって、とにかく美しい。管理小屋の裏にある水門（ここの小川は安威川から水を取り込んでいる）で、しばらく木の枝に止まっていたかと思うと、ぱっと飛んでいってしまいました。きれいな羽の色から、溪流の宝石と呼ばれ、すばしっこいのが特徴。

公園の大きな木は落葉樹が多く、冬のこの時期には葉はほとんど残っていませんが、たくさんの鳥が木々の周りを飛び回っています。セグロセキレイも、落ち葉の上に舞い降りてきて、盛んにエサをついばんでいます。

葉が薄灰色の樹木を見つけました。何の木かとぐるりと回って案内板を見ると、オリーブの木です。姉妹都市の関係にある小豆島町から贈られたものだそうです。いつ実がなるのか見てみたいものです。



水門付近のカワセミ  
(円内の写真は「日本野鳥の会大阪支部」提供)



連絡通路と壁に飾られている陶板画



連絡道を通って南の公園に向かしましょう。連絡道は国道の下に造られています。長さ25メートルほどの通路ですが、壁には市内の小・中学生が水と緑をテーマにして描いた陶板画18枚が飾られています。一つひとつを見てみると、それぞれの絵に夢や希望があり、楽しさにあふれています。こんな工夫を凝らしたトンネル通路に拍手喝采！

トンネルを抜けると森が広がります。小川や小道があり、サザンカ、アオキといった中低木が茂っています。ムクノキ、クスノキなどの大木がそれらを包み込むようにそびえ立ち、その雰囲気はおとぎの国の森を彷彿とさせます。小川には小さな橋が架かり、近くには東屋があります。歩いているうちに頭も体もすっかりリラックスしてきました。

ところで、カワニナってご存じでしょうか。小さな巻き貝で、ホタルの幼虫はこれを食べるそうです。この小川はゲンジボタルの名所で、市では幼虫をある程度成長させてから放流するのだそうです。川底をのぞいてカワニナを探してみたのですが、冷たそうな水がさらさらと岩の間を流れているだけ。ところが、運良く通りかかった公園の管理人さんに、川底から拾ってもらい見せていただきました。初夏、ホタルの乱舞が楽しみですね。

古い石橋、「西河原大橋」が見えてきました。大橋といっても、人が二人すれ違う程度の小さな橋で、昔はその下に水が流れていたのでしょうか。近くにはおもしろそうな遊具があります。大きくて幅の広い滑り台に挑戦してみようかと思ったのですが、子どもたちのように滑り降りる勇気はととも…。



冬の西河原公園内の樹木



西河原公園を出て、安威川の土手に行ってみましょう。冬の河原は寒くて殺風景ですが、それでも太陽の光は降り注いでいます。ジョギングをする人、魚釣りをしている人、水鳥にエサをやる人、体操をしている人などに会います。みんな楽しそうです。川面に視線を移すと、カモが人々に負けないくらい元気に泳いでいます。その横には、大きなサギがじっと動かずに立っています。ふと、空を見上げるとユリカモメが気持ちよさそうに飛んでいます。

さて、今日の散歩はこれくらいにして、そろそろ家に帰りましょう。



安威川に群れるカモとユリカモメ